

# 令和元年度 兵庫県立播磨南高等学校 学校評価に関する報告

【令和元年度 重点目標】

ア 品格のある生徒の育成	4 達成している
イ 将来に夢をもち、夢の実現を可能にする学力の養成	3 だいたい達成している
ウ 地域の活性化に貢献し、地域で輝く人材の育成	2 あまり達成していない
	1 達成していない

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	今年度の取組	生徒	保護者	教員	関係者
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実	学校ホームページや南高ネットを活用する。	学校ホームページの更新を随時行い、本校の教育活動状況のタイムリーな広報に努めた。2学期以降は、参加生徒の感想等を掲載して、活動の具体的な内容と様子が伝わるよう工夫した。また、行事開催のお知らせや配布物の案内等を南校ネットで随時配信した。	2.3	2.5	3.1	3
			学校案内、学校説明会の充実を図る。	学校説明会ではパワーポイントを用いて、より分かりやすい学校紹介を行った。また、オープン・ハイスクールでは実施内容の検討や方法の改善・充実に努めた。			3	
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	制服の着こなし・頭髮・通学マナーなど生徒の規範意識を育む。	月初めの全校集会での服装・頭髮検査や学年での指導により、スカートやシャツだしなどは一時的に直すも、その場を離れると元の状態に戻す生徒がいる。指導の徹底が必要である。通学マナーについては、2学期に入り苦情電話が少なくなっているが依然として自転車の並走、スマホ等のながら運転による苦情がある。生徒には機会あることに交通ルールも含め、命の大切さとルールを守ることの大切さを話していく必要がある。	3.2	3.2	2	3
			校門指導により学年の登校時刻厳守を意識付け、時間を守る生活習慣を確立する。また自転車通学者のマナーアップ指導により交通事故を防止する。	現在も、毎日各学年ともに1桁～2桁の校門遅刻者がある。各学年の月間目標(1日平均:1年3名、2年4名、3年4名)を設定しており、どの学年も概ね目標をクリアしているが、2学期に入り1年生の遅刻者が増えている。また登校時刻のぎりぎりの登校が目立つので、安全面を考え、時間的な余裕を持った登校を心がけるよう指導したい。服装・頭髮・校門遅刻共に特定の生徒に限られてきた。教師全員で(同じ目線で)指導にあたる必要がある。	3.2	3.4	2.1	3.5
		生徒の自立的・自主的活動への支援	学校行事や委員会活動において、生徒会が主体的に行動し、学校の活性化に努める。	生徒会はこれまで行われた行事に積極的に取り組んだが、より主体的な行動をとることが期待される。委員会については、機能している委員会とあまり機能していない委員会があるので、役割を適切に分担する必要がある。	2.7	3	2.6	3
			クリーンキャンペーンなどボランティア活動を通して奉仕の精神を養うとともに地域の活性化に貢献する。	4月に開催されたはりま風薫るフェスタ、5月と10月に実施されたクリーンキャンペーン、11月に開催された大中遺跡まつりには、それぞれ100名を超える多くの生徒がボランティアとして参加した。また、今年度新たに播磨町および播磨町議会と連携して町の未来を考える取組を行った。その他にも様々な地域貢献活動に協力している。	2.7	3	3.3	4
		いじめの未然防止および早期発見	いじめ対策委員会を定期的に開催し、生徒の情報共有することにより、いじめの未然防止を図る。	いじめ対策委員会を3度開催し、いじめアンケートと聞き取りの結果を共有するとともに、いじめの可能性のある事象への対応を検討した。	3.1	3	3.2	3
			いじめアンケートを年3回、担任による個別面談、教育相談を実施し、いじめの未然防止・早期発見に努める。	5月、10月、2月の3回アンケートを実施し、いじめがあったとする回答する生徒に対し、担任を中心に聞き取りを行った。		3	3.3	3
	品格のある生徒の育成	清掃活動の充実させ、ゴミの減量と分別・リサイクルを徹底させる。	ゴミの分別やリサイクルは定着しつつあるが、一部不十分なところもみられるので、引き続き呼びかけを行う必要がある。日常の清掃に加え、行事前にはより丁寧な清掃を呼びかけた。	3	3	2.6	3	
	進路指導	個々の能力・適性を踏まえた進路指導の実現	学校幹旋の就職では、働くことの意味を理解し、就職模試や面接指導、ガイダンスを行い、適性・希望にあう就職を目指す。	学校幹旋就職希望者には、業種と職種を知り、自己の興味と適性を考え、職業選択をさせた。応募前職場見学に参加することで、企業と仕事をしっかり理解させ、面接練習と履歴書指導を行うことで、就職への決心を固めていくことを目指した。	2.8	2.9	2.7	3
			自分の適性や興味、関心にあった進路選択が実現できるように、学年と協力し、進路ガイダンス・資料の提示等を行う。	学年と専門部が協力して、生徒が自分の興味関心にあり、将来の夢の実現に近づけるように、資料の提示を行った。オープンキャンパスの案内・卒業生の受験報告の提示・過去の入試問題の提示等を行い、進路実現のサポートをした。	2.8	2.7	2.8	3
		将来を見据えたキャリア教育と段階的な目線に基づく進路指導の実現	体験学習を通して個々の能力や適性を知り、進路実現を図るために、就職・看護医療希望者のインターンシップ参加率100%を目指す。	就職希望者には、企業インターンシップにより、現実の仕事を知って貰った。看護医療系進学希望者は、看護医療体験に参加することで、自分の適性と関心を知って貰った。学年と協力して、生徒が適切な進路実現を図るサポートを行った。			2.8	
			オープンキャンパス等の情報提供を迅速に行い、その参加を促し、早期に目標を確立し、実現するための学力向上をはかる。	オープンキャンパスや学校案内の資料、入試関係の資料などを提供した。進路関係のガイダンスを行った。早期に目標を立て、進路実現に向けて取り組めるように、情報提供を行った。また、第2学年では、年間を通じて系統的なキャリア教育を行った。	2.7	2.8	2.7	3
	教職員の資質向上	教員の指導力の向上	構成的グループエンカウンターや新学習指導要領の導入において、外部講師を活用した研修を行うことで、教員の資質向上を図る。	8月にカウンセリングマインド研修、1月に構成的グループエンカウンター研修を実施し、支援を要する生徒の特徴について理解を深めた。カリキュラムマネジメント及び総合的な探究の時間について、グループによる研究を行った。			2.7	
	危機管理体制の整備	実効性のある危機管理体制の確立と危機管理マニュアルを作成する。	防災避難訓練を通じて現行マニュアルの見直しとともに、未作成の避難所開設マニュアルを作成する。	播磨町危機管理グループと2回にわたり避難所開設に関する意見交換を行うとともに、新たな危機管理マニュアルと避難所開設マニュアルの原案を作成した。1月には、阪神淡路大震災の追悼行事と関連させて、防災ゲームを実施し、避難所に対する理解を深めた。			3	3
学校間交流	東はりま特別支援学校との交流及び共同学習を通じて理解を深める	東はりま特別支援学校との交流及び共同学習を行い連携を深めるとともに、特別に支援を要する生徒についての事例研修を行う。	東はりま特別支援学校との交流及び共同学習は計画通り実施した。12月7日(土)に行われた東はりまフェスタでは、この1年間を振り返り、生徒自身が交流の意義を実感していた。しかし、全校生徒の関わりになっていないといった問題点がある。ALTによる訪問学習は2月21日(金)に実施予定である。今年度より、担当者だけでなく管理職を含めた情報交換会を行うことで、両校のさらなる交流が進むようにした。	2.7	2.8	3.2	3	
	播磨南小学校との連携を深める	播磨南小学校と連携して行う事業の検討する。	意見交換会を実施。スポーツテストの補助、英語の授業における連携等の意見が出た。スポーツテストの補助については来年度実施の方向で調整している。			2.3	4	
地域貢献活動の充実	地域行事へのボランティア参加や学校間交流を通じて、播磨町の活性化推進に貢献する	生徒会・地域が主催する各種行事、ボランティア活動に、1人に1回以上参加させ、播磨町の活性化に貢献させる。	延べ1200名、実人数で450名を超える生徒がボランティア活動に参加し、参加率は約75%となっている。一方で、約25%の生徒が参加しておらず、全員参加に向けた工夫が必要である。	3.1	2.7	3.1	3	
		当日の手伝いだけでなく、企画段階から関わる機会を増やす。	播磨町ロードレース大会では、有志生徒5名が実行委員会に参加して提案した。当日は開会式に本校生徒が選手激励の書道パフォーマンスを行うとともに、本校のブースも開設した。	2		3	4	

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	今年度の取組	生徒	保護者	教員	関係者	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	「探究」を中心とした授業改善に努める	新学習指導要領の内容を踏まえ、授業内容の見直しを行う。	公開授業月間において、新学習指導要領を先取りした授業を実践した。			2.9	2.3	3
	基礎・基本の定着	基礎学力の向上・公開授業の実施	授業以外の部分でも、基礎学力向上へ向けた取り組みを実施する。	1年・2年でスタディサプリ、到達度テスト、朝学習を実施。小テスト実施後、放課後に補習を行い、知識の定着に努めた。			2.9	2.9	3
			授業参観・公開授業を複数回実施し、各教科で意見交換を行い日々の授業に生かす。	公開授業月間において、新学習指導要領を見据えた授業改善に取り組み、各教科で意見交換を行った。				2.2	
	総合的な探究の時間	地域との協働を中心とした、総合的な探究の時間の計画の立案	地域の課題発見・課題解決能力を養うことにつながる内容の総合的な探究の時間を企画・立案する。	来年度の本格実施に向け、播磨町等の2市2町と連携して地域の課題解決に取り組む授業を計画している。また、加古川税務署と連携した授業を3月に実施予定である。さらに、兵庫大学と連携した「探究学習プロジェクト」授業を実施した。これとは別に、3年生が独自に行った探究の成果を、加古川東高校の「探究デー」、甲南大学の「リサーチフェスタ」、「サイエンスフェアin兵庫」で発表し、成果発表のあり方について研究した。				2.6	4
	個に応じた学習指導の徹底	進路や将来を見据えての入試、科目の設定	進路を見据えての選択科目を再考・設定を行う。	クラス減、教員減が進む中で、生徒の実情に合ったカリキュラムを検討。再来年度以降は検討中。			3	2.5	2
		生徒の実態に即した授業改善	生徒個々の学力を的確に把握し、習熟度別授業や補習等必要な指導を行うことで学力の定着を図る。	小テストを繰り返し実施するなどして、学習の基礎基本の定着を図っている。また、希望補習の実施、1年の英語表現や数学Ⅰにおいて習熟度別クラスを編成するなどして、個々の到達度レベルに応じた学習指導を実施した。	2.8	2.8	2.7	3	
	特色ある教育課程の編成	芸術保育類型の活動をさらに充実・発展させる	芸術科、家庭科、情報科、各学年の連携を充実させ、芸術保育類型生徒のよりの確な状況把握を図る。	チームティーチングで授業を行ったり、実習や発表会に向けて情報交換を行いながら授業を進めた。				2.9	
			芸術保育類型の各授業、活動を充実させ、より専門的な知識・技術の習得を目指す。	現在受講している生徒の状況に合わせて、主体性の促進にも配慮し、より専門性の高い授業ができるように内容を検討している。				2.7	
		学校設定科目と多様な選択科目の内容を検証する	新学習指導要領を視野に入れてカリキュラムを編成するとともに、生徒の実態に即して授業内容の見直しを行う。	特色類型の改編も視野に入れて、学校設定科目と選択科目の内容を検証するとともに、カリキュラム・マネジメントの視点による教育課程の改善に取り組んでいる。				2.8	
	課題教育	防災・安全教育	防災・安全教育の充実	不測の事態に適切に対応できるように、さまざまな災害を想定した避難訓練を行い、防災・安全教育の充実を図る。	7月には火災、11月に地震と津波を想定した避難訓練を実施した。1月17日に阪神淡路大震災の追悼を行い、それに関連させて避難所について考える防災教育を実施した。	2.9	2.9	2.8	3
人権教育		人権教育の充実	学年と人権教育委員会が連携し、ホームルームや講演会などを活用して計画的な人権教育を展開し、人権意識の高揚を図る。	「人権・同和学習」をテーマに2回実施。10月に行われた第2回は外部講師による講演会を行った。近年は若手教員自身が部落差別についてあまり学習しておらず、教員の研修にもなった。	3	2.8	2.5	3	
国際理解教育		国際化の進展を踏まえ、多文化共生の実現を目指す教育を推進する	キーズバラ校より留学生の受け入れ、国際交流 in HARIMA等の活動を通して異文化理解を図る。	9月2日～9月6日までの間、キーズバラ校より留学生と引率教員を受け入れ、本校生徒と授業を受けるとともに、行事を通して交流を深めた。	2.5	2.5	3.2	3.5	
学校の個性化・多様化		インスパイア・ハイスクール事業を活用し、特色類型の活性化を図る	地域主催の行事に参加し、『芸術保育類型発表会』で生徒の活動を発表できる場を設けるとともに、地域への広報活動として取り組む。	まちかどコンサートを実施するとともに、2月には芸術保育類型発表会を本校で実施し、生徒たちは授業における取組の成果を発表した。今年度は対話をテーマに実施し、作品展示や演奏だけでなく、制作や選曲の意図等について説明した。二見漁協の依頼を受けて、港のコンテナに絵を描くなど、新たな取組を通して芸術保育類型の生徒の活躍の場を増やしている。	2.8			3.4	4
	『リトミック』『デザイン』『読み聞かせ』等の専門家を講師に招き、特別講座を実施することで、より専門的な指導を受けられる機会を設ける。		保育実習に向けて保育系列の生徒に対して「ペープサート」や「読み聞かせ」の授業が行われた。また、美術系列では大学での体験授業や造形作家による授業が行った。	2.8	2.8	3.3	3		